

S

社会
Social 1

安心・安全・快適な住空間の実現

基本的な考え方

「人が生き、そして暮らす」という住宅の本質。お客様にとって住宅はいつまでも美しく丈夫で長持ちし、安全で快適なものであることが重要です。ウッドワンは木材を扱うプロとして、常に木材の「安心・安全・快適」な住宅部材としての本質を追求していきます。

安全で快適な製品づくり

大切に育てた木を、お客様のライフスタイルや社会のニーズを満たしながら、安心して使える高品質で環境負荷低減に貢献する環境配慮型製品としてお届けします。

■ 品質保証体制

世界レベルの品質を確保し、良質な木材製品を安定的に提供していくための品質システムに与えられる「ISO9002」に続いて、品質保証体制が国際規格に整合し、高品質の製品を生産している証である「ISO9001」を全生産工場で取得しています。



認証済みISOロゴ
※一部間接部門を除く全事業所で取得

■ ホルムアルデヒド対策

当社グループでは以前よりシックハウス対策を強化するため、ホルムアルデヒド低減対策を進めてきましたが、2003年7月の建築基準法改正に合わせて、製品の基材や使用する接着剤を見直し、同年7月1日より全製品約180品種100,000アイテムについてホルムアルデヒド放散量が最も少ない区分であるF☆☆☆☆対応商品に切り替えました。

JAS製品についてはJASに定められた定期試験を実施し、JAS以外の製品についても同様に定期的にホルムアルデヒド放散量試験を実施しています。また、ホルムアルデヒド低減化建材の開発に取り組むなど、さらなる製品の改良によってホルムアルデヒド放散量の低減化に継続的に取り組んでおり、安心して暮らせる住宅部材の提供を行っています。

ホルムアルデヒド放散量基準に対する建築材料と面積制限

表示記号	改正後 基準値		使用する建築材料	面積制限
	平均値	最大値		
F☆☆☆☆	0.3mg/ℓ	0.4mg/ℓ	無垢材 F☆☆☆☆製品 (IBFc0、E0より 上位レベル)	面積制限なし
F☆☆☆	0.5mg/ℓ	0.7mg/ℓ	F☆☆☆製品 (IBFc0、E0レベル)	居室の種類、換気回数によって、使用できる面積が制限されます。
F☆☆	1.5mg/ℓ	2.1mg/ℓ	F☆☆製品 (IBFc1、E1レベル)	
—	5.0mg/ℓ	7.0mg/ℓ	上記以外	使用禁止!!

■ VOC(揮発性有機化合物)対策

当社では、シックハウス対策強化のために、有害な化学物質を含有しない天然植物成分で作られた自然塗料を塗装した商品シリーズを展開するとともに、2009年から一般社団法人 日本建材・住宅設備産業協会(以降、建産協)をはじめとする各業界団体が制定した「住宅部材VOC表示ガイドライン」に基づき、木質材料が4VOC(トルエン・キシレン・エチルベンゼン・スチレン)放散基準に適合することを示す「4VOC基準適合」(建産協の登録商標)の設定を取得し、自主表示を行っています。また、厚生労働省も13の化学物質を対象に室内濃度指針値を制定しています。

また2003年度にVOC対策基本方針を設定し、厚生労働省の室内濃度指針値を下回る自社基準を設け、低VOC対策を進めています。

厚生労働省室内濃度指針値対象13物質に対する当社の対策状況

(単位: μg/ℓ)

化学物質名	VOC対策状況	対策基準	厚生労働省室内濃度指針値
ホルムアルデヒド	F☆☆☆☆	建築基準法	100
トルエン	4VOC 基準適合	業界団体 自主基準	260
キシレン			200
エチルベンゼン			3,800
スチレン			220
パラジクロロベンゼン	低VOC対策	自社基準	240
フタル酸ジ-n-ブチル			17
テトラデカン			330
フタル酸ジ-2-エチルヘキシル			100
ダイアジノン			0.29
アセトアルデヒド			48
フェノプロカルブ			33
クロルピリホス			不使用(使用禁止)

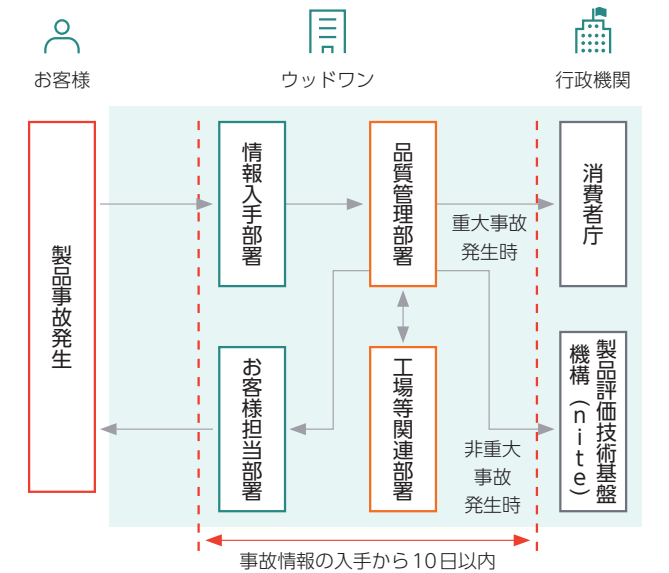
■ 製品事故発生時の対応

当社では、製品事故が発生した場合に備えて、速やかに品質管理部署に情報を集約し、関連部署と緊密な連携を図る体制を整備しています。行政機関に対しては、「消費生活用製品安全法に基づく製品事故情報報告・公表制度」に従い10日以内に報告を行っています。また、品質管理部署と工場等の関連部署が連携し、事故原因の究明と、再発防止に向けた商品開発を行っています。

法規制違反件数・重大製品事故発生件数

(単位: 件)

	2020年度	2021年度
法規制違反件数	0	0
重大製品事故発生件数	0	0



■ より長く、より快適にご使用いただくための長期保証

「キッチンの心地よさは、暮らしの心地よさ」をポリシーとする当社では、製品を長く安心してお使いいただけるよう、最長5年の「もっとあんしんキッチン延長保証サービス」を提供しています。



長寿命製品の開発

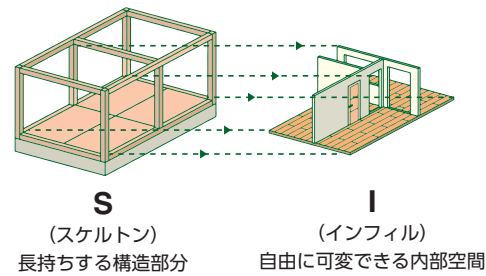
ウッドワンは、樹木は木材に姿を変えても生き続けて、メンテナンス次第で永い「寿命」を保つことを知っています。この自然素材の特性を活かし、長寿命化住宅を実現するための技術・部材開発を行うことで、省エネルギー、省資源など環境配慮型製品としてお届けします。

■ SI住宅に対応した長寿命製品の開発

当社は「生活価値創造住宅開発プロジェクト(ハウスジャパンプロジェクト^{※1})」に参画し、戸建て住宅のSI対応技術に取り組みました。SI住宅^{※2}を実現するために、①耐久性の高い構造部材の開発、②強固な構造、③リフォームしやすい内装部材の開発などで当社の技術が活用されています。

※1 ハウスジャパンプロジェクト：旧通産省が1994～2000年度に実施した国家プロジェクトで、ゼネコン、ハウスメーカー、建材メーカー等34社が良質な住宅ストック形成のための技術開発を実施。

※2 SI住宅：住宅の構造部分をS(スケルトン)、それ以外の非構造部分をI(インフィル)に区分した住宅。S(スケルトン)に耐久性の高い構造部材を使用して強固な構造とし、I(インフィル)を自由に取換え可能な内部空間とすることで、住まい手のライフスタイルの変化に合わせたリフォームが実現でき、住宅の長寿命化につながる。

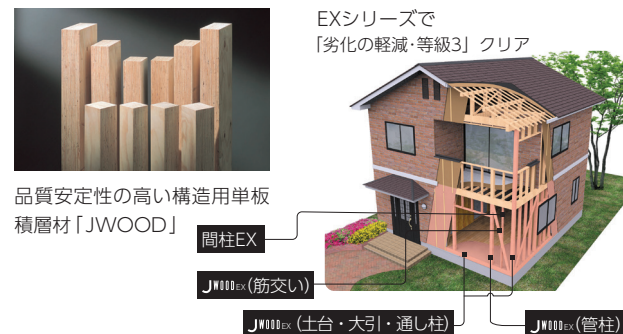


■ SI住宅を実現させるための技術 ①耐久性の高い構造部材の開発

木造住宅の構造部には、木材を薄く削った単板を積層接着し、強度のばらつきや反りねじれといった木材の欠点を改良した構造用単板積層材LVL(商品名：JWOOD)を製品化しました。さらに、土台、大引、通し柱等といった住宅の中で最も耐久性を要する部分には、LVLの優れた薬剤浸透性を活かして、木材の内部まで防腐防蟻処理した「JWOODEX」を開発し製品化しました。これらの技術によって、住宅性能表示制度^{※3}における「劣化の軽減」住宅型式性能認定^{※4}で最高等級の等級3を取得し、住宅としては価値ある75～90年の耐用年数を誇る耐久性を確保しています。

JWOODとJWOODEXの特徴

- 木材の欠点である反りねじれを克服
- 内部まで乾いているので施工後の乾燥収縮がなく、建物のがたつきを最小限に抑える
- 断面の奥深くまで防腐防蟻処理された高耐久材料
- 人や環境への負荷の少ない低毒性薬剤を使用



※3 住宅性能表示制度：住まいの性能を10分野に分け、共通の基準(モノサシ)で第三者が等級や数字で表示する制度。2000年より運用を開始した。

※4 「劣化の軽減」住宅型式性能認定：土台、柱の腐りにくさといった劣化を軽減する部材の組み合わせを認定したものの。

■ SI住宅を実現させるための技術 ②強固な構造「JWOOD工法」

JWOODは、寸法安定精度が高く乾燥による縮みが少ない材料です。また、JWOODと専用金物を採用した「JWOOD工法」は、従来の伝統的な在来軸組工法と比べて接合部を強固にし、地震に強い長寿命化住宅が可能になります。JWOOD工法は「構造の安定に関する

※5 「構造の安定に関すること」住宅型式性能認定：住宅構造の耐震性の程度を認定したものの。

こと」住宅型式性能認定^{※5}の最高等級(耐震等級3)を取得し、耐震性の高い構造躯体を実現しました。また、高強度の梁材と金物接合は、梁下の柱材を減らし大きな内部空間を作れることから、間取りの自由度を高めています。

■ SI住宅を実現させるための技術 ③廃棄物を削減できるリフォームしやすい内装部材の開発

SI住宅では可変自在なインフィル^{※6}が不可欠ですが、現状のリフォームでは内装部材の取り外しが難しく、リフォームしない部分の壁も傷つけるためにクロスの張り替えが必要になるなど、リフォーム工事が大掛かりになっていました。これらの問題を解決するために、ウッドワンは従来の施工方法の考え方を逆転させた後付け

※6 住戸の間仕切り・仕上げ材など内装や設備を指す用語。

施工の考え方を追究し、リフォームやメンテナンスに容易に対応できる部材を開発しました。これらの開発製品を組み合わせることにより、リフォーム工事を容易にするだけでなく、現場での加工や養生の手間を最小限に抑え、廃棄物の削減に努めています。

■ 地域工務店の「長期優良住宅」認定取得をサポート

当社では、地域工務店による「長期優良住宅」建設を支援するため、構造(耐震)計算や省エネ計算等の設計サポート業務を2009年より行い、長く住まえる家づくりに貢献しています。

非住宅木造化の推進

当社は環境問題、災害、職人不足などの社会課題解決に貢献するため、事務所・店舗・学校・保育所などの公共性の高い非住宅の木造化を推進しています。強度に優れたJWOOD LVLが、中大規模建築の可能性を拡大します。

■ 非住宅向けJWOOD工法、部材の開発背景

建築業界では、CO₂の固定化や建物長寿命化など環境配慮に関するさまざまな施策が行われ、公共事業や非住宅の木造化が進んでいます。一方で、大地震に対する耐震性や熟練工の高齢化などによる職人不足など、さまざまな課題も抱えています。このような課題を解決すべく、木造でありながら大空間を確保し、スケルトン・インフィルを実現することで用途変更も自在に行える中大規模木造や耐震性の高い建物、画一化され現場施工性の高い合理的な建築物が求められています。

当社は平成30年度の国交省による「住宅・建築物技術高度化事業」に採択され、木材・木質部材を活用した高性能接合部の技術開発を行いました。

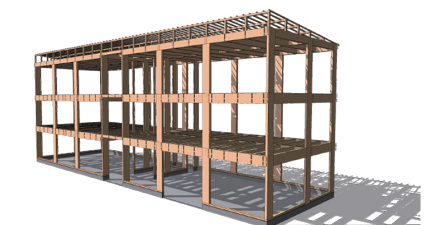
開発は、「従来であれば、鉄骨造で計画されている建物を非住宅向けJWOOD工法で建てられること」を前提に行いました。

社会的背景	求められる建築物
○環境配慮への施策	○中大規模木造の長寿命化
○大地震による被害	○耐震性の高い建物
○職人不足	○合理的な工法

■ 非住宅向けJWOOD工法

高性能なモーメント抵抗結合システムによるラーメン構造を用いることで、壁・柱を少なくし、用途変更やリノベーションに対応させたスケルトン・インフィルの実現を可能としました。

■ 鉄骨造と同等の柱割リスケルトンを実現



■ 建築事例



B種LVL
施工例：ウッドワンプラザ金沢



JWOOD150幅&140E材
施工例：広島県廿日市市
まちの駅ADOA大野